

- \* 「救い」とは第一義には病や困難、危険や貧困から逃れることであるが、本来は靈魂の根本の問題である。聖書では、救いとは私たちの生まれながらに持っている「罪」から解放されることである。それは「キリストと共に」（エペソ 2 : 5）起こる。死んでいた魂が生かされる。このキリスト教の救いの手段は神がイエス・キリストの十字架によって私たちの罪を贖ってくださることによる。罪のまったくないキリストのいのちの犠牲によって私たちの罪が赦されるのである。
- \* 「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」（エペソ 2 : 8）救われるためにどうしても必要なことは「信仰」である。イエス・キリストを信じる信仰。使徒信条で告白する信仰、すなわち、三位一体の神と「イエス・キリストの福音」を信じる信仰である。
- \* 救いは「恵み」「賜物」である。神から一方的に無償で与えられるものである。自分の努力や、多くの捧げものや、苦しい修行で救われるわけではない。人間の罪は余りにも大きいので、自分でも、また、人に手伝ってもらっても取り除くことができない。そこで、憐み深い神はイエス・キリストという「助け船」を出してくださった。これに乗れ。乗るだけであなたの罪を赦してあげよう、と言われる。私たちはこの神からプレゼントを感謝していただくだけでよい。
- \* 「行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。」（2 : 9）  
もしも、人の行いによって救われる、救われないが決まるのなら、救われた人は必ず自分の行いを誇るだろう。そしてその誇りはまた必ず他人への非難やさばきとなる。信仰でさえ自分で勝ち取ったと思うならば、その「信仰」は「行い」になってしまう。
- \* 「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」（2 : 10）  
私たちはどんな人でも神に造られた「芸術作品」である。しかし、罪を犯したので本質的に「良い行い」をすることができなくなっている。「良い行い」とは神に喜ばれる、神に受け入れられる行いである。それができるように私たちはイエス・キリストにあって「新しく作り直される」のである。再創造である。神の歪んだ形が修正されていく。「良い行い」は、救われた結果、キリストに倣うものとなり、愛のうちに歩むことによって、達成されるのである。